

学校名	研究課題	研究手法
金沢市立大徳中学校	教科一般	学習評価の充実

1 研究の重点と具体的な取組

重点1 組織力を生かした共通実践の工夫

- ・ペア・グループ学習の実践、ルーブリック表・自己評価表の作成、生徒理解等について、校内研修会や教科部会、拡大学年会を実施し、全職員で共通理解を図るとともに全教科で共通実践を行った。

重点2 対話力育成のための工夫

- ・明確な思考課題を提示し、自分の考えを持つことを大切にした。
- ・ペア・グループ学習を積極的に授業に取り入れ、対話の充実を図り、話す力・聴く力を育成してきた。その際、ペア・グループ学習の目的を板書に明示し、話し合う視点を明確にした。

重点3 学習評価の工夫

- ・生徒の自己肯定感を高める手立てとして自己評価を取り入れた。各教科で作成したルーブリック表をもとに毎時間の授業を振り返り、自分の成長や変容が見て分かるように自己評価表を活用した。

2 取組の検証

- ・「思考課題の提示」「自分の考えを持つ時間の保障」「ペア・グループ学習の実践」等について、教員アンケートではほぼ100%、生徒アンケートでも88%以上の肯定的な回答が得られた。「自分には良いところがあると思う」についての肯定的な意見も年々上昇しており、自己肯定感の高まりが感じられる。
- ・金沢大学松原教授に授業を参観していただき、昨年度よりペア・グループ学習の進め方が良くなっていると話していただいた。また学習評価については、自己評価の例を紹介していただく等のご助言をいただいた。
- ・学習評価に関する資料について、全教科でルーブリック表及び自己評価表を作成し、授業において共通実践を重ねてきている。

3 成果と課題

- ・全職員で共通実践することを心がけてきたため、ペア・グループ学習の実践や目的の明示、ルーブリック表や自己評価表の活用等について、職員全体の意識が向上し、それに伴って生徒の自己肯定感の高まりも感じられるようになってきた。
- ・今後は、作成したルーブリック表や自己評価表について、授業にどう位置づけ、どのように活用していくかを検討し、有効に活用できるような工夫をしていくことが必要である。また、生徒の相互評価や教員による評価等、他の評価方法についても検討し、自己肯定感の向上や思考の深まりに生かせるようにしていくことを課題として捉えている。